開港5都市景観まちづくり会議横浜大会
開催記録

●開催テーマ●

「150年の歴史とにぎわいづくり」

開催日：平成16年3月12日（金）～14日（日）

●主　　催●

開港5都市景観まちづくり会議横浜大会実行委員会

目　次

はじめに

プログラム

全体会議①
第１部
第２部

ウェルカムパーティー

分科会
第１分科会
第２分科会
第３分科会

代表者会議

オプショナルツアー

全体会議②
大会アピール

企画展示

大会シンボルマーク
開港５都市景観まちづくり会議規約　開催経過
開港５都市景観まちづくり会議横浜大会実行委員会規約
掲載新聞等

参加団体

大会プログラム　【３月１２日～１４日】

３月１２日（金）　【第１日】			
13:00～16:30	全体会議①<横浜情報文化センター情文ホール> 第一部　開会式・各都市紹介 第二部　講演「開国150年と横浜」 （講師：原範行　横浜商工会議所副会頭）		
18:00～20:00	ウェルカムパーティ<ホテル・ニューグランド>		
３月１３日（土）　【第２日】			
9:00～16:30	分科会		
	第１分科会	第２分科会	第３分科会
17:00～18:00	代表者会議<シルクセンター会議室>		
18:30～20:00	オプショナルツアー　ナイトクルージング <マリーンシャトル>		
３月１４日（日）　【第３日】			
10:00～11:40	全体会議②<BankART 旧富士銀行> 閉会式・分科会報告・大会宣言		

分科会		
第１分科会	第２分科会	第３分科会
9:00～16:30 「心に刻まれたあこがれの港町　～文学とうた～」	10:00～16:30 「わがまちのイベント」	9:00～16:30 「近代化遺産をいかしたまちづくり」

展示「中区歴史を碑もとく絵地図展」
<情報文化センター　情文プラザ> ３月１２日（金）～３月１４日（日）

第１日　全体会議①　第１部　【3月12日】

会　場：横浜情報文化センター　情文ホール
時　間：１３：００〜１４：００
参加者：１４５名（他都市６８名、横浜市７７名）

＜第１部＞　１３：００〜
開会式　司会：佐藤琴美（横浜観光親善大使）
主催者挨拶　六川勝仁（実行委員会会長）
来賓挨拶　　金子宣治（横浜市都市計画局長）
各都市紹介
　函館市　清野恒夫（函館の歴史風土を守る会）
　新潟市　小柳行弘（にいがた花絵プロジェクト実行委員会）
　神戸市　堀川栄俊（栄町通周辺まちづくり懇談会）
　長崎市　橋田克男（山手地区景観まちづくり協議会）
　横浜市　嶋田昌子（NPO 法人横浜シティガイド協会）

● 主催者挨拶要旨　六川勝仁（実行委員会会長）

函館、新潟、神戸、長崎の皆さん、ようこそ横浜にお出かけをいただきました。心より歓迎をします。横浜からも多数の皆様にご参加をいただいております。併せてお礼申し上げます。

この開港5都市景観会議は平成5年、神戸からスタートし、今回で二回り目の最後、10回目の開催ということになります。今回の横浜大会は、横浜にとって意義のある絶好のタイミングでの開催ということになりました。と申しますのは、今年は横浜の地で日米和親条約が締結され、いわゆる日本が開国いたしまして 150 年の節目の年にあたっております。

ちょうど 150 年前の安政元年、1854 年の3月8日に、ペリーが横浜沖に来浜し、3月 31 日に日米和親条約が締結されたので、ちょうど 150 年前のまさしくこの時期に、どういう形で条約を締結するか、我が国でもケンケンガクガクの議論が行われていたという時期に、この横浜大会が開催されることになりました。今回、このような意味も含めまして、横浜大会のテーマは「 150 年の歴史とにぎわいづくり」とさせていただきました。

また、基調講演は、横浜商工会議所副会頭でホテルニューグランドの会長でもある原範行さんにお願いしました。「開国 150 年と横浜」という演題でお話をいただきます。

さて、横浜は前回大会の6年前と比べると、大変な様変わりをしています。

みなとみらい 21 地区には、メディアタワー、ワールドポーターズ等が完成をいたしました。また、馬車道、日本大通り、元町もリニューアル工事が完成しました。また、中華街もリニューアル工事が進んでいます。

山手の西洋館も、ベーリックホール、山手 234 番館等、再整備が終了しています。

私ども横浜も、この開港都市景観会議で勉強させていただいた多くのアイディアを横浜の街づくりに取り入れています。

今、大変話題にいるみなとみらい線も、23 年の年月をかけ、今年の2月1日に開通を迎えました。これにより、東急東横線乗入れで東京渋谷から元町・中華街までが最短で 35 分で結ばれました。

私は常々、このみなとみらい線は、みなとみらい 21 地区の新しい街から、馬車道、関内、元町・中華街と、歴史のある街を駆け抜ける観光路線であると思っていました。まさしく横浜の町街に1本の軸が通った感じがしています。

この、みなとみらい線の各駅は、特徴のある駅です。設計も、馬車道駅は内藤廣さん、元町・中華街駅は伊東豊雄さんといった、我が国を代表する建築家が手掛けています。

是非、一度はこのみなとみらい線に乗車をしていただき、各駅大いに楽しんでいただきたいと思います。

限られた3日間ではございますが、どうぞ皆様方の活発なご議論、ご協力をお願いいたしまして、私の開会のごあいさつとさせていただきます。本日はありがとうございました。

● 来賓挨拶要旨　金子宣治（横浜市都市計画局長）

全国から多くの皆様に歓迎申し上げます。また、とともに、大会の準備を進めてこられた実行委員会の皆様に感謝します。また、多年にわたり会を継続されてきた函館、新潟、神戸、長崎の市民団体の皆様にも敬意を表します。

横浜は日米和親条約が締結された地であり、開国150年を迎える今年に、横浜で「開港５都市景観まちづくり会議」が開催されることは、意義深いものがあると考えます。

開港５都市は、まちづくりに歴史・文化を生かしていくという共通の取組を行っています。

また、市民の皆様の活動が活発なことも共通するところだろうと思います。

横浜では、歴史的建造物をまちの活性化にも生かしていくため、文化芸術による活用実験なども始めました。このような取組を通じて、「みなとみらい」といった未来的な街と、関内周辺の伝統ある個性的な街が調和し、発展するまちづくりを目指しています。

２月１日に、「みなとみらい線」が開通いたしました。横浜の観光スポットを結ぶ路線として、注目度も高く、また、東京の渋谷と直通することから、１日平均１５万人のお客様にご利用いただいております。

横浜では、５年後の開港１５０周年に向けて、市民の皆様や行政などが一丸となって、活力あるまちづくりに向けて取り組んでいるところです。

今国会で「景観法」が上程され、審議中ですが、その背景には、この開港５都市景観まちづくり会議のような市民の活動があったからこそだと思っています。

本日から３日間にわたる大会が、皆様方にとりまして、実り多いものとなりますよう、祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

● 各都市紹介函館市　清野恒夫（函館の歴史風土を守る会）

昨年の函館大会には、全国から皆様、大勢参加いただきありがとうございます。今年は横浜に我々が大変喜んではせ参じて参りました。明治10年に函館と横浜とが定期航路で結ばれたんですが、今はもうその船はございませんので、今日はやむなく、渋谷からみなとみらい線で元町まで来ました。

函館の都市紹介ですが、北海道人は大変、口が重くて口下手でございまして、函館弁を使うのがうまいのですが、標準語は下手ですので。

幸い今年はいいビデオを手に入れました。これはあるビデオ会社が作ったんですが、函館の街の成り立ち、それから大火。函館は大火の町でございまして、大火によってどんどんどんどんと町が変わっていく。それから我々の歴史的風土がつくられてきた経過を、ビデオを使って、十二、三分ですけれども、お付き合いください。なお、今日の紹介、歴風会の吉村ですが、シャイなものですから、先ほど逃げまして、会長の私、清野でございますけれども、代わってやっておりますので、よろしくお願い申し上げます。

じゃ、ビデオのほう、ひとつよろしくお願いいたします。

（ビデオ上映）

ということで、他力本願の宣伝でございました。ありがとうございました。

函館にある建物の多くはですね、個人の所有なんですよ。その個人の所有が、自分の自らの財産を投げ打って、再生保存といいまして、昔々の建物にまた造り替えて住んでいるというのがほとんどでございます。大変そういう御苦労をしながらですね、街づくりに寄与していただいているということでございます。

今日は函館の伝統的建物保存、そういう団体がございまして、実際に住んでいる方なんですけども、その代表である共同通信の小林社長殿も今日、来ておりますので、是非、文化会の中でいろいろお話しいただければというふうに考えております。どうもありがとうございました。

● 各都市紹介新潟市　小柳行弘（にいがた花絵プロジェクト実行委員会）

今日は歌いません。こんにちは。「にいがた花絵プロジェクト実行委員会」の小柳です。新潟は横浜から一番近いのに、たった 12 人の参加なのは残念ですが、よろしくお願いします。先ほど函館のビデオをみて、懐かしいという気持ちでいっぱいでした。前回の函館大会は私にとっても楽しい大会で、懐かしかったです。新潟もビデオを使ったほうがいいなと思いましたが、無いので、後ほど写真を 10 点ほどお見せします。

私は、横浜をしっかり確かめようと思いまして、昨日、来ました。大会では、横浜を 12 人で楽しんで勉強して、新潟の景観に生かしたいと考えています。今朝も、誰もいない赤レンガ倉庫に行き、潮風を感じてきました。カモメが１匹、私に付いてきて、「カーカー」と鳴いたので、これも歓迎かなと思いました。

さて、新潟は、最近やっと港の周辺が変わってきました。では、写真をお願いします。

万代橋です。新潟と言えば万代橋。これは３代目の橋でして、今年、75 周年を迎えます。誕生日の 8 月 23 日に向けて誕生祭を考えています。はい、次どうぞ。

（画像）万代橋の近くに昨年オープンした、朱鷺メッセという、30 階建てのビルです。新潟平野にこれが建ったときにはびっくりしました。ここの展望室からのは、新潟平野と新潟の市内、あと、島、日本海、佐渡を見ることができ、大変、眺望がいいです。是非とも来てください。

①信濃川の近くにあるのが「やすらぎ亭」という公園。皆さん、水辺で楽しんでおります。

②これが私たちのやっているに「にいがた花絵プロジェクト」です。新潟はチューリップの球根栽培では全国一番ですが、球根を大きくするために花を切ってしまいます。それを使って、大きな絵を作っています。このイベントには横浜さんと神戸さんも、新潟まで来ていただいてチューリップを摘んでいます。

③新潟祭です。

④日本海の夕日です。日本海に沈む夕日。３年前に新潟大会で皆さん多分、夕日を御覧になったと思いますけど、素晴らしい夕日です。

⑤これは、その夕日を見ながらコンサートをやろうということで始め、14～15 回と続いている「日本海夕日コンサート」です。今年は８月 10 日に行われます。

⑥２年前、サッカーのワールドカップが行われ、今年はＪ１に上がる、アルビレックスの本拠地である「ビッグスワン」です。

⑦光のページェントです。これも駅南にあるページェントでございます。大変にきれいで、雪の降った日には恋人たちの集まる場所となっています。

⑧新潟の冬。食の陣。これは 12 月 1 日から 3 月 31 日まで、新潟の食を楽しもうと開催されている食べもののイベントでございます。前回の新潟大会でこの大会にぶつけまして、皆様をドッキリさせたと思います。

そんな感じで、新潟は、川と川の周辺が今、どんどん変わりつつあります。

各団体も、前回の新潟大会からいろんな活動が始まっていて、この会議が与えた大きな風は今も続いています。

最後に、今日、横浜でこういう言葉を発見しました。その言葉は「確かにこの土地は自分のものであるが、風景や自然はみんなのものだ。だから、みんなでめでようではないか」という、原三渓さんの言葉でした。とても感動しました。以上です。ありがとうございました。

● 各都市紹介要旨　神戸市　堀川栄俊（栄町通周辺まちづくり懇談会）

堀川です。毎回、拍手喝采の新潟の後は非常に話しづらいです。

横浜大会、本当に開催、おめでとうございます。ましてや開国 150 年ということですので、重ねての記念になると思います。

我々神戸の景観形成市民団体連絡協議会は 10 団体の市民団体で構成されています。

その 10 団体の皆さん方がこの開港５都市景観まちづくり会議になると、非常に盛り上がります。それは、やはり温かいつながりがあるからではないかと思います。１年に一度ですけれども、お会いして、温かい交流があり、そしてより深い街づくりの勉強会ができ、ということではないかと思います。ますますこの景観まちづくり会議が、盛んになるように祈念します。

神戸については、まずお話ししないといけないのは、平成７年１月 17 日、阪神淡路大震災のことです。本当に美しい港、緑に包まれました六甲山渓に抱かれました神戸の町が、本当に一瞬の間に、建物と、町も、そして高速道路までもが破壊され、たくさんの犠牲者が出ました。

そのときに街づくりに立ち上がったのが、本日参加しています 10 団体の皆様方です。

本当に一生懸命、街づくりをしていただきました。市民の皆様方も参加していただきました。全国からのボランティアの皆さん方にも応援していただきました。お蔭で神戸の街は、前より、一段と美しく、日１日とよみがえっています。

ここにおられます開港５都市の皆さん方にも、大変温かい御支援をいただきまして、我々本当に勇気づけられました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

地震は天災ですが、被害を小さくしたり、あるいは、町をできるだけ早く復興させることはできるのではないかなと思います。

復興した神戸の町を、スライドで見ていただきます。

① 海からの夜景です。夜景として、神戸の一番ポピュラーな部分で、左がポートタワー、真ん中、海洋博物館、右側がホテルです。

② 山のほうから見た神戸の夜景です。市章山から見ました夜景で、上の赤い部分が埋立地、ポートアイランドです。左に神戸空港が７割方、埋立てているところです。一番上に明かりがありますが、左から大阪、中央部から右は関空、そして右が和歌山です。

③ これから各 10 団体の街づくりの皆さん方の地域です。旧居留地連絡協議会です。昭和 60 年の認定で、景観と防災に大変熱心な協議会です。

④ この右の部分は商船三井ビルのライトアップでして、平成 14 年の神戸市景観ポイント賞を受賞しています。

⑤ 栄町通り周辺街づくり懇談会です。オフィスビルが建ち並ぶ地域でしたが、銀行、生保、損保等々が撤退し、マンションが大変たくさん建ち並んでいる地域になりました。

⑥ 北野・山本地区を守り育てる会です。昭和 56 年に出来た、神戸の中で一番古い歴史あ

る協議会です。右が異人館、風見鶏の館の前の広場でございます。照明デザインコンペによってライトアップされています。

⑦ 神戸南京町協議会です。平成３年の認定です。南京町の夜景です。古き良き時代の中国の雰囲気があり、観光客、若い女性の人気スポットです。

⑧ 美しい町岡本協議会です。学生向けのおしゃれな街が建ち並ぶ美しい町岡本でございます。学生がたくさんいる地域でもあり、神戸の方々が住みたいという町の一つです。

⑨ 魚崎郷町並委員会です。この地域は震災の本当にひどい地域でした。見事に立ち直っています。これは菊正宗の資料館の絵です。

⑩ 新長田駅北地区東部家並委員会です。震災後できた委員会です。震災後の区画整理事業によって、家並の基準に基づいて出来た店舗です。この地域は完全に震災でやられた地域ですが見事によみがえっています。

⑪ トアロード地区街並委員会です。道路に面しました店内の部分を緑化しました。「町に緑を」ということをテーマに取り組んでいます。

あと２点、平成 15 年度にできた神戸元町商店街委員会があります。元町商店街といいますのは、130 周年を迎えます歴史ある商店街です。

もう一つ、三宮中央通り街づくり協議会があります。こちらは地下鉄海岸線ができたときに同時にできた委員会です。

現在、神戸はこのように 10 団体の皆さん方が力を合わせて街づくりを一生懸命やっています。横浜にこさせていただきまして、一生懸命、勉強して帰りたいと思っています。

今回の３日間、横浜大会が成功裏に終わることをお祈りして神戸のあいさつとします。

ありがとうございました。

● 各都市紹介長崎市　橋田克男（山手地区景観まちづくり協議会）

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました橋田です。

安政の修好通商条約により、開港した５都市において、毎年、順に会議が開催されてきました。平成５年の神戸市で第１回大会以来、今回の横浜大会で５都市すべて２巡したことになります。これはとても感慨深いものです。生きてて良かったなと実感をしています。

会議の開催の成果として、参加された皆様方の貴重なご意見、各市民団体の交流などによって、それぞれの都市における街づくりに大きな効果が出ていると確信をしています。

横浜市ではみなとみらい、馬車道、日本大通り、元町・中華街などを結ぶみなとみらい線が開通したということで、この会場へ来るときに私どもも利用しました。この開通により、みなとみらい21地区の現代的なビル街、横浜赤レンガ倉庫、数ある歴史的な建造物、老舗の並ぶ商店街や中華街、名所旧跡などへのアクセスが簡単になっています。横浜市は、今後、一層活性化し、大きく発展していくものと思います。

この大会につきまして、関係者の皆様方の会議にかける情熱、意気込みに強く感じており、準備された方々に対し、心から敬意を表します。

それでは、紹介をさせていただきます。

① この映像はグラバー園です。大浦天守堂があります。南山手地区の背後に位置する鍋かぶり山。鍋をかぶったような山でして、港と市街地そして北部への眺望があります。なお、港の中央に先日、できたばかりの大型の客船ダイヤモンドプリンセスがあります。これは火事を起こして、皆さん方にご心配をかけた船です。先日、ヨーロッパに行ったところです。

② 今、長崎の町並は大きく変わろうとしていますが、平成18年の春までに開通予定である、長崎港の入り口を横断する南大橋の完成予想図です。もう着々と工事が進んでいます。長崎歴史文化博物館、県の新美術館なども完成の予定です。市長が「平成18年には大輪の花を咲かせます」と意気込んでいるので、是非これも見ていただければ有り難いと思っています。

③ 長崎港の埋立てに始まった常盤地区の美術館の建設や公園整備、それから水辺に面した高層の建築、出島の復元などが進みました。今月27日には長崎自動車道など、長崎出島道路が長崎市中心地である新地への接続ができることになっています。これにより高速道路を通ると、大村長崎空港まで20分で行けるそうです。グラバー園、オランダ商館跡、大浦天守堂などから東山手、南山手地区などの観光地へのアクセスが大きく変わろうとしています。反面、景観に関しまして影響を及ぼす変化もございます。異国情緒豊かな町と言われている長崎市ですが、最近、高さのあるマンションなどが次々と建築されておりまして、山に囲まれた長崎の景観、特徴であります山の緑、背景とした市街地からの眺望や、山頂・斜面地外の港への眺望が遮られることも少なくありません。マンションが建設されるということは、その入居者により人口が増加して、町もにぎわい

を増すということがございますけども、景観につきましては、今まで見えていた景色が見えなくなるということもございます。したがって、良い景観の保持と町の活性化というこの二つのことをうまく組み合わせていかなければなりません。その中で町の活性化、発展する街づくりを行うということはたやすいことではないことを実感しておるのでございます。しかし、たゆまぬ努力を重ねることで、町は必ず良くなるものと考えております。

④ 山手地区景観街づくり協議会及び大浦青年会の方もおみえです。それぞれ３名ずつ６名が参加しています。活動地域は、長崎市の代表的な観光地である東山手地区、南山手地区で、グラバー園や居留地時代の洋館が残っております。今、映している画像は、昨年９月に開催いたしました長崎居留地祭のひとコマでして、当時の華やかな衣装、居留地パレードの様子でございます。

⑤ 深堀地区街づくり協議会からは３名の方が参加しています。御承知のように、深堀地区は長崎市の南部に位置しておりまして、縄文時代から人々が住み続き、江戸時代には佐賀鍋島藩の領地として栄え、武家屋敷通りや赤穂浪士の討ち入りの手本にもつながると言われる長崎喧嘩騒動の 10 人義士の墓など、歴史的な遺産が数多く残っておるところです。また、町のイベントとしては、６月のペーロン大会、10月の深堀くんちなどがあります。今、映している画像は、昨年６月に開催されましたペーロン大会の様子です。

⑥ 三ツ山町・イヌツギ地区街づくり協議会からも３名の方が参加をしています。この地域は長崎市の北部に位置する三ツ山町・イヌツギ地区です。自然に囲まれた白い姿の三ツ山カトリック教会がある美しい地区です。伊達政宗がローマに派遣した支倉六右衛門一行が帰国したとき、キリシタンであることから、仙台では迫害下にあったので、信仰を守るためここ三ツ山の地に移り住んだと言われています。会では豊かで愛情を感じる町を目指して、町全体の環境整備や、田園風景の再整備、花いっぱい運動、イヌツギ歴史マップ作り、学習活動などを行っています。

⑦ 今回始めての、浜町六商、六商店街から４名が参加しています。この方々は将来、商工会議所の会頭でありますとか、そういう予備軍の方々でございまして、大変、楽しみなところです。私もやっと後継ぎができたなと安心です。この長崎県の繁華街、これは長崎言葉で「浜ン町」。「浜の町」「浜ン町」って言うのです。商店街一帯は日本三大祭の一つであります、毎年 10 月に行われる長崎くんちの踊町でもありまして、祭に大きな役割を担っています。

以上、長崎市から５団体が市民団体を代表して会議に参加しています。今回の横浜大会で皆様とのお話しにより、お互いに持っている悩みをお互いに出しながら学びたいと、期待をしています。どうかよろしくお願いして、私の講演を終わります。

● 各都市紹介横浜市　嶋田昌子（NPO 法人横浜シティガイド協会）

皆様、港横浜にようこそ。今日は皆様方の各都市紹介ということで、いろいろな町のいいところをたっぷり聞かせていただきました。横浜も、皆様、ランドマークタワーか何かがピッと頭に浮かぶかと思いますが、あのランドマークタワーがある「みなとみらい 21」。そうした新しい町と古い町、歴史を生かした街づくりということで、この二つの町がほどよくミックスしたのが横浜です。

明治５年、鉄道が開通しました、初代横浜駅。現在の桜木町駅ですが、そこから鉄道が通っていた廃線跡を利用いたして、汽車道、山下臨港線プロムナードが「開港の道」として整備されています。

そして、その海側に赤レンガ倉庫、大桟橋があり、今、臨海部に目が行っています。

とりわけ２月１日にみなとみらい線が開通し、テレビ、ラジオが「横浜」について報じていて、住んでいる私どもも、「ああ、いい町に生まれて良かったな」と思っています。

そこで横浜を紹介するにはあまりにも時間がございませんので、これからの３日間、たっぷり皆様方に横浜を味わっていただこうと思いまして、主催の団体をそれぞれ駆け足で紹介していきたいと思います。それでは、画像のほうをお願いいたします。

① 「みなとみらい線」が東京と横浜を直結しました。30 分ちょっとで東京の方々が横浜に来る。その一番終点の駅の「元町・中華街駅」ですが、協同組合元町ＳＳ会が頑張っています。ライブタウン事業、第３期の街づくりの整備が終わり、各商店が自分たちの土地を提供する歩道空間のセットバック。これにより歩行者の快適な歩行者空間が保障され、真ん中の部分で人々の交流が生まれるという街づくりを行っております。

② こちら元町の商店街から１本山手側のところ、こちらが元町中通り会でございます。こちらの会は、1994 年発足なので、ＳＳ会よりは少し遅れていますが、最近では整備が進んできています。画面に映っているのは、元町中通りインターナショナルフードフェアです。いかにも横浜らしい催しです。シェフさんたちが頑張っている、そういうフェアです。

③ 横浜中華街発展会協同組合です。これは春節の風景ですね。こちらでは中華街の憲章をつくり、そこで人々の友和、友好というものをはかっています。

④ 山下公園通り会です。先ほど阪神淡路大震災の、本当に大変な思いをなさった方々がいろいろな思いを語っていただきました。関東地区でいくと関東大震災がこの町の様相を一変させました。横浜の人口 45 万のうちの大体、20 分の１が亡くなるという災害でした。そのガレキを捨てた部分が山下公園に変貌します。日本最初の臨海公園。そこの山下公園に面している、山下公園通り会です。

⑤ こちら先ほどの山下公園と元町・中華街、この３地区が今、セントラルベイＹＭＣ協議会というのをつくって大変、協力しながら行っております。山下公園通り会としては、

ワールドフェスタ横浜が大変、有名です。あと横浜港カッターレースという、港らしいイベントをしています。

⑥ 馬車道祭が11月にあります。英国製の馬車が走っています。馬車道商店街協同組です。今こちらも赤レンガ、ガス灯を生かした整備が進んでいます。明治5年というのは、先ほどの鉄道開通と同時に、この馬車道にガス灯が点灯した年です。

⑦ 庶民の町、伊勢佐木町に移ります。伊勢佐木町1・2丁目商店街振興組合。昨年の12月の大晦日の紅白歌合戦、唯一ホールから外へ出たのがこの伊勢佐木町でした。「ゆず」というグループがこちらで熱唱しまして、伊勢佐木町を人々が埋め尽くしました。ゆずさんはこの伊勢佐木町で夜、歌い、そして中央に進出したグループです。福祉のまちづくりに大変熱心に取り組んでいます。ただ、この福祉のまちづくりという考え方は、突然出たものではなく、昭和52年のイセザキモールが誕生し、言ってしまえば最初のバリアフリーができました。それを再度また、今度はハートも添えて福祉のまちづくりということで今、頑張っています。

⑧ そしてもう一つ、伊勢佐木町の商店街を御紹介いたします。協同組合伊勢佐木町商店街。こちらには「伊勢佐木町ブルース」の青江三奈さんの歌碑が映っています。「環境にやさしい」、リサイクル、こうしたものに取り組んでいます。

⑨ 大道芸と言えば野毛でございます。野毛地区街づくり会を紹介します。最近では「野毛の大道芸」がみなとみらいや各都市にまで普及し、有名になっています。

⑩ 商店街と協働しているＮＰＯ団体が４団体、入っています。ＮＰＯの法人化を持っているところもありますし、まだこれからというところもあります。一番の老舗が、横浜の観光を考える会です。これは若竹会という会が発端です。今回は祭ということで、第２分科会で皆様方とお目にかかれると思います。

⑪ 関内を愛する会です。こちら関内祭ですね。是非、夜の関内を楽しんでいただくと、関内を愛する会の良さが分かると思います。最近こちらにＴＶＫ、神奈川新聞さんが新しいビルを建てたので、また一段と光が当たるのではないかと思います。

⑫ 山手西洋館ボランティアネットワーク。こちらは山手にございます西洋館の保存活用をしておりました山手234番館の運営に携わっていたメンバーが２年前に結成したものです。子供たちの絵を展示するユースギャラリー。春のチューリップアートプロムナード。大変、新潟さんにはお世話になっています。最近は池にフロートを浮かべて、チューリップをなるべく長く見てもらう試みもしております。

⑬ では最後に、私が属しているＮＰＯ法人横浜シティガイド協会です。横浜にいらっしゃる方々をお迎えし、それから市内の方々にももっともっと横浜を知っていただきたいと思って頑張っております。

今年はペリー来航150年の年に当たります。日本の近代化の窓口となった横浜が、また当時のように再び元気な横浜ということになるように願いながら、横浜を３日間、楽しんでいただければと思います。どうもありがとうございました。

第１日　全体会議①　第２部　【3月１２日】

会　場：横浜情報文化センター　情文ホール

時　間：１４：１０～１６：３０

参加者：

講演「開国１５０年と横浜」

講師：原範行（横浜商工会議所副会頭）

講演者プロフィール

原　範行　（はら　のりゆき）＜横浜商工会議所副会頭＞
株式会社ホテル、ニューグランド代表取締役会長
横浜プロモーションフォーラム議長
東京工業大学卒業
原地所社長、株式会社ホテル、ニューグランド社長を経て
２００３年２月から現職。
横浜市中区在住。７５歳。

観光ＰＲ　佐藤琴美（横浜観光親善大使）

大会オリエンテーション

●講演「開国１５０年と横浜」　原範行<横浜商工会議所副会頭>

ご紹介に預かりました原です。横浜までお越しいただきまして、ありがとうございました。

今年は横浜にとって、開国 150 周年、また、ペリー上陸 150 周年という記念すべき年です。このような年に、この地において本会が催されることを心から歓迎します。

私は歴史学者でもなく、また、都市計画の専門家でありませんので、私自身が感じているところを率直にいろいろつなぎ合わせ、横浜独自の歴史に折り混ぜてお話します。

150 年前に横浜で日米和親条約が結ばれ、開国が正式に決まりました。ちょうど条約が締結された応接所の場所が、この前にある神奈川県庁です。

日米和親条約の５年後に日米修好条約が締結され、函館、新潟、神奈川、兵庫、長崎の開港が決定したことを考えると、非常に万感胸にこもる思いです。この大会において、各都市の歴史的な背景のもと、変遷を経て、苦難を乗り越え、今日に至る経過、あるいは、今後の活動方向について論議が行われるものと期待しています。

本日、私は主催者の一員として、開港以来、横浜がどのような経過がたどり、現在の状況をもたらし、また、今後どのような方向を目指しているかについてご説明し、ご参考にしていただきたいと思います。

（スライド 1）この絵は、本日の懇親会会場であるホテル・ニューグランド「ペリー来航の間」でご覧いただけますが、3 月 8 日にペリーが上陸したときの模様です。ペリーが連れて来たドイツの画家ハイネが描いたものです。興味深いのは、描かれている玉楠の木が現存していることです。一旦、震災で完全に焼失したのですが、根が残っていて、新たな木が生え、現在、開港資料館の中庭にいっぱいに生え、歴史を物語っています。左に描かれているのが応接所でして、ペリー提督がこの応接室に入ってくるところを描いています。

（スライド 2）日米和親条約と修好条約は、締結にいたる過程でのやり取り、また幕府、朝廷等内部での検討期間を経て、3 月 31 日に、この４点が決まりました。(1)下田、函館２港の開港と、薪、水、石炭、食料の補給。(2)アメリカ船の必要とする必需品の購入の許可。(3)アメリカ人が自由に行動できる地域、いわゆる勇往区域の設置。(4)必要があれば領事を下田に置くこと。以上４点です。条約は、平等ではないという見方もありますが、戦火を交えず短期間のうちに、この二つの条約が結ばれたことは、後の日本の発展を考えた場合に非常に意味のあったことだと思います。

その後、ハリスが領事に就任し下田にいました。ハリスはハードネゴシエイターだったようで、朝廷の反対があったにもかかわらず、修好条約を４年後に結び、神奈川、長崎、新潟、兵庫の開港を決定しました。アメリカとの条約締結に続き、ロシア、オランダ、イギリス、フランスとも次々に同様の条約を結びました。

条約締結の翌年に横浜は開港しました。ハリスは、当初、宿場である神奈川での開港を要求してうたようです。幕府は江戸からできるだけ遠くに港をつくりたいという考え方から、横浜を開港の場所として主張していました。先方も、貿易港として考えた場合に、横浜も

なかなか良いという考えになり、当初は神奈川で予定されていた港が横浜になったようすが、現在の横浜にとっては、この決定がクリティカルな決定だったかなと思います。

(スライド 3) この絵は、開港時に描かれたものではなく、開港 50 周年を記念して和田さんという画家がその当時を想定して描いた絵です。簡単に説明すると、この部分がいわゆる横に長い浜、横浜です。こちらは、後ほど埋め立てられた太田新田という水田です。この絵は、野毛、伊勢山の上から見た横浜を想定して描かれています。ごらんのように何の変哲もない田んぼ、麦畑と多少の民家、寺とか神社が一、二あったという寒村でした。

当時の幕府は、開港後の混乱を避けるため、外国人居留地をできるだけ日本人から隔離したいという考え方でした。このため、横浜を長崎の出島のようなものにしたいと考えていました。

(スライド4) 非常に雑な絵ですが、古い絵図に見る横浜です。横にあった浜です。ここをできるだけ隔離したいという考え方が幕府にあり、その後の計画で、現在の大岡川に堀(現在の中村川) を造りました。すると、この部分が川と運河と堀で、隔離される形になります。それでここを外国人居留地にするというのが基本的な考え方で、開港後、開発していきました。外国人居留地であるこの部分と、従来の横浜との間に、ここにははっきり見えませんが、吉田橋と、あとここにも橋が二つあったようです。いずれもこの橋の、出入口には関所があります。

(スライド5) これは吉田橋です。ここに関所があって、この外国人居留地に入るには、この前を必ず通って許可を得るという、厳重なブロックがされていたということです。日本人の外国人への違和感をできるだけ防ごうという意図が出ています。

(スライド 6) これは町並がそろった後の図です。外国人居留地と日本人の居留地の間にいくつかの橋がかかっていて、はっきりと分けています。東半分を外国人居留地として、西の半分を日本人の町にしたわけです。その後、横浜に商船、また、日本人も希望する人はだれでも商売することができるようになったので、全国から多くの人々が商売を目的としてやってきました。「横浜商人」という名前の由来はここに始まったそうです。

(スライド 7) この頃、貿易の中心になったのは生糸です。1860 年代から、少しずつ中身は変わってきたり、一時的にお茶が増えたこともありますが、生糸、絹織物が主体の貿易が、戦前まで続いたそうです。

(スライド 8) 多くの外国人が、いろいろな分野で西洋の知識を伝えました。横浜を通して西洋文化が日本全国に広まっていったわけです。そういう意味において、横浜が我が国の文明開花に果たした役割は大変大きなものがあったと思います。

(スライド 9)「横浜ものはじめ」と言われている代表的なものを挙げています。鉄道、灯台、新聞、アイスクリーム、乗合馬車、電信、郵便、電話。ホテルは諸説がありますが、野球、牛乳、クリーニング、歯科医。

(スライド 10) ガス灯、写真館、水道、オルガン、マッチ、石鹸、ビール。ビールは史跡が諏訪町の「天沼ビア酒」に残っていますが、今のキリンビールの元になったところで

す。テニス、競馬もあります。横浜が初めてその文化に触れて全国に広げていったというものがあまたにあるわけです。「横浜ものはじめ」を一つの横浜の観光の拠点にしようという動きもあります。

（スライド 11）その後の横浜の発展、街づくりに話を戻します。これは歌川貞秀さんという当時の版画家が、1862 年ですから、開港後 3 年目の横浜の写景を版画にしたものです。

開港わずかに 3 年にして、新しい堀割、関所、居留地、運上所という税関のようなもの、船番所、波止場を作っています。それからギリシア人のお屋敷がある場所と、こちらは「オランダ屋敷」と書いていますから、オランダ人のと、二つに分けてあるようです。

その間に「異人の墓」とあるので、恐らく船員とか、居住している外国人が亡くなったときの外国人墓地が、今と同じ場所にあります。それから、増徳院、弁天など、宗教的な史跡はその当時からのものが現在も残っています。それから、町名も太田町、弁天町というのは既にこの段階であります。開港３年目にして、寒村が一変し、横浜のまちづくりがここまで来たということは驚くべきことです。

（スライド 12）明治時代を迎えると、関内を中心に横浜は急速に広がっていきます。町は西洋風のレンガ造りの建物が林立しました。貿易の発展、あるいは、西洋文明が次々と入ってきて、まさに日本の玄関として最もハイカラな町へ変貌していきました。この絵は、横浜の関内から見た、フランスの館と出ているので、フランス人が住んでいた町、あるいは、商館だったと思いますが、にぎにぎしく、沖合に商船がたくさん停泊していて、外国人が町を散策している模様が分かります。

（スライド 13）更に 1872 年、明治５年になると、新橋と桜木町の間に鉄道が開通しました。既に東京が政治の中心として確定いました。その東京と貿易経済の窓口であった横浜を行き来する鉄道が引かれ、横浜の発展にはずみが付きました。

この絵のただし書きを紹介すると、「東京－横浜の共、賃金」と書いてあるのは汽車の運賃だと思います。そこに、「大人一人前、特等１両２朱、中等３分、下等１分２文」と値段が出ています。あと時刻表が「午前の出車、８時、９時、10 時、11 時」、「午後の出車、２時、３時、４時、５時、６時」とあります。１時間置きに出ていたようです。最後に、子供は 12 歳まで無賃とあり、既に正規の輸送手段として走っていたことがよく分かります。非常にロマンティックな版画です。

もう一つ鉄道にまつわる話です。当時のアメリカ側の記録絵図により面白い話が伝えられています。

ペリーが来航してから 31 日に和親条約を結ぶまでの間に幕府や朝廷への献上物をたくさん持ってきていて、その陸上げを考えていました。3 月 13 日と言われていますが、その当日は高波の日だったようですが、27 隻のボートで約 40 数点の贈り物を運び入れたそうです。その中で、最も人々の関心を引いたのが機関車と電信機だったそうです。

中でも機関車は、全長が約 2.5 メートルで、幅が 1.5 メートル、客車の長さが 3.5 メートルで、模型としては決して小さなものではなかったようです。応接所の裏に、約２キロ。

本では 100 メートルという説もあるのですが、レールを引いて、試運転をしたそうです。

これを見た幕府の林大学頭の下臣、川田八之助という侍がアメリカの士官を「是非、乗せてくれ」と口説き、これにまたがって乗ったそうです。時速約35キロで走り、乗ったのはいいのですが、着物の裾を翻しながら、必死になって客車にしがみ付いて、歯をむいて笑っているようには見えたけれど、その実は体をブルブル震わせていたという逸話が、ハイネの絵とともに見聞録の中に描かれているそうです。

150年というと一体全体どのぐらいなのかと時々思うのですが、私は75歳ですので、150年というのはそれを二つ重ねたものなのですね。私自身、3歳の時のうっすらとした記憶があるのですから、75年の記憶というのはそれほど、遠い世界じゃないなと思います。150年はその2倍ですから、決して大昔ではそうではないということだと思います。

ペリーが献上物として持ってきた機関車を、将軍が受け取ってから 18 年後に、東京と横浜の間に鉄道を完成させせました。これにはイギリスの鉄道技師のモレルが技術指導を行いました。レリーフが桜木町の駅に飾っています。このことは、当時の日本がいかに進取の気性に富んでいたか、また、技術レベルがあったかということの一つの査証ではないかと思います。

しかしながら、物事すべて順調にいくというわけではありません。横浜においても 1923年の大震災と、それから1945年の大空襲によりまして、街が崩壊しました。特に第2次大戦による被害は、大変大きいものでした。その後の駐留軍による主要地域の接収もあり、都市部の復興は他都市に比べまして非常に遅れました。

しかし、これは結果論ますが、復興への着手が遅れたことは、逆に横浜の将来にとって幸いではなかったかという見方もできます。万一、戦災以降、都市再生のルールなしに、・・当時は資材も悪く、技術も低かったと思いますが・・、無計画な復興、都市計画が進められたなら、恐らく今日の横浜にはなってなかったでしょう。

確かに長期にわたる接収は横浜の経済を直撃しました。いろいろつらいこともあったわけですが、後に新しい市のコンセプトで、腰の座った都市計画の作成を可能にしたことは、不幸中の幸いであったと思います。しかし、反面、横浜の経済という観点から見ると、本社機能の東京への移転はもちろん、多くの支店が閉鎖されたり、営業所に格下げされたり、我々としても経済的に困窮した時期がありました。

横浜市も手をこまねいていたわけではなく、早期の接収解除を働きかけていました。

横浜市は、昭和 26 年に二つの基本方針を出しました。一つは港湾整備の拡張。一つは、工業生産力の発展。これらは積極的な港湾工業化によって横浜市を工業都市へ導き、横浜港を単なる貿易港から、工業地帯と直結した物流の集散港へと変身させるために、有力企業の誘致による臨海工業地帯の造成というものに重点を置くようするものでした。

景色も素晴らしく、潮干がりもできた、本牧、根岸、磯子の沖合が埋め立てられ、家から見る海の情景というのは風情があったのですが、現在でも我々は非常に残念に思っています。「工業化」で、昭和 30 年の大黒地帯の埋立てに始まり、根岸沖、金沢沖の埋立て、工

業化と拡張を続けたわけです。また、港湾の整備についても山下埠頭、出田町埠頭、その他港湾施設の拡張が図られました。

そういった中で我々が戦後、盛り場として楽しませてもらったのが伊勢佐木町、関内、野毛です。最近、「みなとみらい 21 地区」や「みなとみらい線」などが、いろいろ華々しい部分が喧伝されていて、旧市街地についての考え方が後ろ向きになっていましたが、それぞれの町がいろいろ工夫をして、新たに息を吹き返す、息吹というのが活発に動き出しています。そういった活動を助ける意味で、みなとみらい線も一つの大きな力にはなっていますが、決して昔の盛り場が駄目になったということではありません。

（スライド 14）これは横浜の全体図です。ここが関内、外国人居留地を含め、貿易その他を中心にした商業が活性化した場所です。それに付随した伊勢佐木町、野毛、が商業地、歓楽地として戦後、栄えていました。

戦後、接収をされていた横浜駅の西口ですが、だれも顧ることがなかった砂利置場の接収解除、相模鉄道の資本投下により、開発が始まり、にわかに脚光を生み始めました。昭和31年に相鉄の名店街、34年に横浜高島屋、ステーションビル、ダイヤモンド地下街。また、43年に東口スカイビル、48年にジョイナス、横浜三越と加速度的に開発が進みました。

従来は関内にあった商業の中心が急速に横浜駅周辺にシフトしました。都心部の顔を生み出すことになりました。一方、従来の港を中心とした貿易経済の衰退がもたらした空洞に対して、横浜は今後どのように対応し、まちづくりを進めるべきかを、昭和 40 年に入り、横浜国際港都建設計画として、次の六大事業が示されたわけです。

（スライド 15）(1)都心部の強化事業、(2)金沢地区の埋立事業、(3)港北ニュータウン。

港北ニュータウンは、広大な地域造成し、居住地区、あるいは、ハイテクを中心にした工業地区が開発されていきました。(4)高速道路網整備計画、(5)高速鉄道の整備計画、(6)ベイブリッジ計画、以上六つの基本計画が出されました。

これらはいずれも現在の横浜市の機能の根幹を形成するもので、当時としては誠に時期を得た計画であったと思います。

また、この段階でベイブリッジの建設がうたわれていることは、誠に興味深いことで、現在のベイブリッジが果たしている交通・観光上の役割を考えると、その先見性を高く評価するものです。

先ほど都心部の２極化の問題に触れましたが、「旧市街地」と、新興の西口、東口。この間は元国鉄が走り、三菱重工の横浜造船所、国鉄の高島町操作場があり、完全に両地区が分断されていました。これが一緒につながることによって、両方が補完し合う都市計画が持ち上がりました。

将来の国際文化管理都市という構想がされ、そういう機能を持った地域に育成しようとしていました。具体的にはこの工場を、三菱重工の協力を得て、金沢地区に移転しました。

また、高島町の操作場は、横浜市が譲り受け、両方を結ぶ一つの大計画が浮き上がって来ました。この旧市街と新市街を結ぶ地区が「みなとみらい21 地区」です。

三菱重工の跡地利用に合わせ沖合を埋め立てる計画が動き出したのは、昭和 50 年に入ってのことですが、既にそれ以前から私どもの耳にも入っており、「国際港湾都市横浜」をどのように位置付けるか、官民挙げて論議が重ねられました。

貿易経済の地盤は完全に低下していたので、横浜が長年、培ってきました国際性を生かしながら、新たな発展を期するために、この新しい埋立地、後のみなとみらい 21 地区を拠点にして新たな国際コンベンションシティとして生まれ変わる方向へ変わっていったわけです。

「国際コンベンションシティ」という言葉がこの段階で初めて登場しました。横浜と同様の状況下にあった神戸市が、ポートピア埋立てを契機に、コンベンションホール、あるいは、ホテルの建設を始めました。

聞くところによると、当時の宮崎市長は、「お客は我々がどんどん連れてくるから、これを受け入れる施設を民間でどんどん造ってくれ」と話していたと聞き、横浜にとっても大変、刺激になる話でした。

既にみなとみらい 21 計画もスタートはしていましたが、当初の予定より遅ために、日本経済の最盛期ギリギリのところでの実現ということになりました。

みなとみらい 21 計画では 19 万の昼間就労人口を目指した大プロジェクトでた。まだまだこれから先、到達するには時間がかかります。

コンベンションシティの核となる「パシフィコ」には、私どもの民間企業も、相当、出資をし、第三セクターとして昭和 60 年に設立し、その後、国立会議ホールの誘致、付属ホテルと、いわゆる国際会議場ゾーンの建設に成功しました。

これに続き、同地区のシンボルとも言うべきランドマークタワー、それに付随するロイヤルパークホテルが、三菱地所の協力で完成しました。その後、美術館、病院、クィーンズモールと、同地区のクィーン軸に沿った計画がほぼ完成しました。

順調な計画であったように聞こえますが、中身はなまやさしいものではありませんでした。私どもも、いろいろ「ひやっ」としたことを記憶しています。

ランドマークタワーの建設に踏み切るのは、いかに三菱地所とは言え、大変な思い切りだと思います。当時の中田社長に言わせれば、これは社運をかけた事業であると。やるかやらないかという決定を下すのに大変時間がかかった。最後はやはり地元の熱意と、状況から決定したということです。

国際平和会議場「パシフィコ」の建設についても、難行した部分もありました。特にホテル誘致においては難しい問題がありました。国立ホールの誘致についても、当時の細郷市長が、大変熱心に中央へ働きかけました。恐らく日本全国の各都市が国立の会議場、ホールの誘致を国に働きかけたと思いますが、その中で何とか横浜に誘致できたのが幸いでした。

また、クィーンズモールの建設については、二つのグループが手を挙げ、結果的には立派にあのような形で完成されましたけれども、途中で問題もあり、バブルが崩壊しつつある

段階でしたので、地元の熱意や、当時の市長の働きかけがあってはじめてできたものと考えます。表面的には非常にうまくいっている、きれいに出来上がっているというものでも、中身を見ると大変な苦労があったということ。これは実際に携わっている我々より皆さん方がよくお分かりだと思います。

横浜も未解決の問題をいっぱい抱えながら、一生懸命やっていくということで、決して自慢話ではないので、同じお立場の方も多いと思いますので、御理解を賜りたいと思います。

古いデータになりますが、こういったいろいろな努力が実り、コンベンションへの参加者を含めた横浜の観光客が、昭和50年の初めのころは、1,000万人の域を出なかったものが、現在、既に 3,500万を目指すところまで増加しています。

わずか20年で約3倍になったということは、私どもにとっては幸いなことですし、ほかには、それほど例がないのではないかと思います。中田市長も観光に熱心で、就任早々、観光を市政の一つの大きな柱にすることを宣言ました。

横浜は「アーバンリゾート」と言われていて、首都圏からちょこっと来てちょこっと帰る。交通が便利になってきて、そんなに長くいる必要もないわけですね。見るところが散在している関係で、一つ有名なところへ行き、二、三時間費やし、飯でも食って、あとは帰るというそういうスタイルが非常に多かったのですが、何とか横浜に引き留めようと、「Stay in Yokohama」という言葉が去年の春ごろから出てきました。

これは我々、ホテル業者は最も望むところで、個別の観光のＰＲだけではなく、横浜を「こういうふうに楽しめますよ」で、「１日じゃなくて２日どうぞお泊まりください」という仕掛けを一生懸命考えている最中です。

ホテル数も増えました。ホテルの数が増えるということは、観光客を増やすということなので結構なのですが、実際にその業に携わっている者から見ると複雑な部分があります。企業競争、価格競争の面で、きれい事ではない部分がいっぱいあります。

例えば10年前を見て、その当時の観光客の数に比べて現在を見た場合に、「ホテルがなかったら来てくれなかったな」と考えますし、どこまで行ったら楽になれるのかなと思っています。しかし、受入体制がなければ、だれも見向きしないというのは事実です。したがって、これからも、先を楽しみにしながら努力をしていくというのが現在の実情だと思います。

交通道路網の充実は都市機能の飛躍的な向上を果たしました。みなとみらい線の開通によって、首都圏の心臓部への時間が大幅に短縮されました。平日の昼ごろ、山下公園、元町・中華街の辺を散策すると、大変多くの、特に中高年のカップル、あるいは団体の方が散策を楽しんでいます。明らかに東京、あるいは、近県からこられている方ではないかなと思うのですが、このみなとみらい線が開通して、大幅にこの地域への来客数が増えています。

まだ「Stay in Yokohama」までには至っていません。これは恐らく、もう少し我々が努力をしなければいかないなと。近県以外の、東北や、北海道、関西、九州から来ていただけるにはもう少し努力が足りないと思います。

開業月でありますが、２月にはトータルで約 430 万人の方がみなとみらい線を利用しているということで、当初の予想に比べて大変多いということに喜んでいます。

しかし、私どもこれは決して気を許しているわけではありません。新丸ビルも六本木ヒルズができたら来客数が激減したという話も伝わっていますし、日本の方は比較的、移り気の方が多いので、それをしっかり引き留めるにはどうしたらいいかということが永遠の課題だと思っています。

いずれにしても、今までは、みなとみらい 21 に焦点を持っていかれて、旧市街地にみえる方が少なかったのですが、交通手段の改善、あるいは、山下公園通りは「お泊まり」、中華街は「食」、元町は「買物」と。その三つが一緒になって売り出そうと新しい組織ができまして、昨年から機能しております。といったように、みなとみらい線というものが，いろいろな面ではずみを付けています。

一時的かどうかは別にしてブームがきていると思いますが、都市の特色の打ち出しが、まだ、足りない点があると反省しています。

コンベンションシティを名乗っている都市は数知れずあるわけですが、本日おみえの四都市の皆さん方もすべてやはりコンベンションシティというものを指向していると思います。港町という面でも全く同じわけです。

私たちはこれから何を軸点、アイデンティティー、存在意義、存在の根拠にしていくかということを考えました。

結局、到達した結論は、横浜が今から 150 年前、ここで開国をし、現在の日本の繁栄をもたらした、日本の文明開化に貢献したことの「誇り」が基になった一つの町という認識。それが横浜なのだということを、我々自身が知り、大々的にＰＲする部分が欠けているのではないかと思っています。

例えば、ペリーが来航したことについても開港資料館にわずかにある程度で、ペリーの銅像もありません。

横浜が開港の街であるから横浜に行こうという動機付けができるものが無いと、私は思っています。これからは、見て分かる史跡のようなものを充実させて、それらをつなげ、皆さん方に知っていただく努力が必要かと思います。

開国 150 年の記念行事では、昨年、「近代日本開国横浜開港 150 周年記念事業推進委員会」、という非常に長い名称の委員会ができ、会長には高梨横浜商工会議所の会頭、中田市長が名誉会長となって進めるということです。

事業の展開にあたっては、企画会社に頼んで大々的にやるという方法は取っていません。

先日、江戸開府 400 年に携った担当者に話を聞いたのですが、「江戸開府」の予算は、東京都が 7,000 万で、商工会議所が 4,000 万とのことでした。金額ではなく、地域が自発的にいろんな企画をするのを側面から助けることが主眼だと言っていました。私どもも全くそのとおりだと思います。

ここに掲げた事業の中には、「150 年」でなくても、横浜のイベントとして 10 年やってき

たものが、約七、八割入っています。

今年独特のものとしては「みなとみらい線開業」で、開国 150 年を冠にした事業の、キックオフとして大々的にイベントをやりました。

この開港５都市景観まちづくり会議も、協議会の活動のイベントの一つとして登録させていただいています。

150 周年の記念式展では、日米協会が主催で内外の賓客を招き、実際に和親条約が結ばれました開港広場で行い、その後のパーティーを大桟橋でやる計画です。

港祭国際仮装行列は、これは六川さんが企画委員会長をやっていますが、今年は、開国を一つのテーマにしていただけるはずです。

その他にもいろいろありますが、いずれも「150 年」を冠に付け、予算的な裏付けと、実効の上がる方法を考えていくというのが一つの考え方です。そういうイベントを通じて、横浜の基本である「開国」について、皆様方に認識していただきたいと考えている最中です。

これがシンボルマークです。先ほど気付いたのですが、開港５都市の景観のマークに似ていますね。偶然の一致なので、これは別に意図的なものじゃないです。緑が企業で、青が行政で、赤が市民。それで、企業と行政が混じり合うところに力が生じて、市民と行政の混じり合うところに融合があり、帆が上に向かっている形に、一般公募で決まりました。

今後、開国 150 年から開港 150 年まで、あと５年あるので、それをしっかり逃さないようにしたいと考えています。

その「開港 150 年」のときは是非、本日お集まりの５都市の皆様方と何らかの形で一緒にできる行事を考えていくべきだろうと考えています。

この５都市は、戦前戦後、苦しい場面を切り抜けて現在に来ているという立場において、共通した部分がありますので、今後も、皆様から温かいご協力、アドバイスをいただきたいと思います。また、私どもでお役に立つことがありましたら、何なりと、ご要望を承ります。この開国 150 周年を機に、開港５都市の連携が深まれば、幸いだと思います。

講演にふさわしくない話ばかりしましたが、多少、本音をまじえ、歴史、あるいは、その間の経過、現在の考え方を話しました。

本日以降、横浜を大いにお楽しみ、いい思い出をつくっていただくことをお願いして、私の講演に替える次第です。御清聴ありがとうございました。

●観光ＰＲ　佐藤琴美（横浜観光親善大使）

私たち横浜観光親善大使は、今年、初代となっています。昨年までの「ミス横浜」は 50 代の区切りで幕を下ろし、今年からは横浜観光親善大使が横浜の魅力を皆様にお伝えする役割を果たすことになりました。現在、４人の横浜観光親善大使の目を通した、ローカルな、そしてリアルな横浜の魅力を伝えられるようにいろいろなところに行っています。

このような会議で司会を務めるのは慣れていないので緊張しますが、皆様どうぞ肩の力を抜いて楽しんで話を聴いてください。

それでは早速ですが、横浜の最新情報をお伝えしていきたいと思います。

皆様、横浜には６年ぶりということですが、この６年で横浜は大分変しました。

みなとみらい線の開通を筆頭に、大桟橋や赤レンガ倉庫、野毛のにぎわい座や元町や山手の西洋館なども衣替えをいたしまして、また日々新たな魅力がどんどんと生み出されております。

これから、そのニュースポットを中心に、私と一緒にしばしの横浜散策にどうぞお付き合いください。

① 大さん橋国際集客船ターミナルです。コンペによるデザインがとても個性的です。木でできているホールで、アーティストのコンサートなども行われています。屋上は 24 時間オープンになっていて、夜にはライトアップで浮かび上がる大さん橋がとても幻想的です。

② 続いては、赤レンガ倉庫です。かつての倉庫が生まれ変わったスポットで、外観はこの赤レンガの歴史の重みを感じさせ、内部には若者に人気のある店なども入っています。その近代と歴史の重みのコントラストが、古いものを未来に溶け込ませていく横浜らしいまちづくりを感じさせのではないかと思います。花火も美しく見える海沿いの赤レンガ倉庫、ニュースポットです。

③ 続いては、みなとみらい 21 地区です。ランドマークタワーや大観覧車があり、人の心が、ワクワクするような、全体がテーマパークになっているようなエリアです。昼はさわやかな海からの風が駆け抜け、夜は宝石箱を引っくり返したような美しい夜景が楽しめる。そしてまた、この海と近未来が一体化したような街になっています。

④ ２月１日みなとみらい線の開通で、横浜にまた新たな１ページが開かれました。ますます便利になったアクセス。新しい電車はたった 4.１キロですが、その 4.1 キロの中に歴史と未来が共存する町の横浜らしさが凝縮されていると思います。みなとみらい地区から終点の元町・中華街駅までの流れは、まるで未来から過去への時空旅行のような感じを受けます。それを感じさせる駅のつくりも特徴となっています。それではこれから、新しい５つの駅を紹介します。

⑤ まず一つ目の駅が新高島駅です。海とモダン、近代の街を先取りした駅になっております。新高島駅を出ると、臨港パークにつながっていて、その海をモチーフとしたデザイ

ンとなっています。この出入口は、夜にライトアップされ、まるで光のオブジェようになります。

⑥ 続いて二つ目の駅はみなとみらい駅です。降り立っていただくと、目の前にそびえ立つエスカレーターが目に飛び込んでいます。こちらは地下 23 メートルから一気に地上へと吹き抜けているチューブになっているのですが、この地上の光がさんさんと地下 23 メートルにまで降り注いでくるつくりになっています。こちらはみなとみらいらしい船をイメージした駅になっております。ウォーターフロントへ乗り込む陸からの船、船から降り立ったら、港町横浜の散策の旅にいざ出発という感じですね。

⑦ 続いて、馬車道駅へ移ります。馬車道駅のテーマは「未来と過去の融合」です。駅を出ると、ガス灯や歴史的な建物が立ち並ぶ馬車道商店街などにつながっていて、その未来から歴史的な地区への中継地点となっているのがこちらの駅なのです。こちらの駅の壁では、職人さんが手作りの赤レンガを一つひとつ手で積んだ「赤レンガの壁」があります。そして、それとは対象的に、アクリルでできた透明ないすが配置されています。その昔ながらの歴史を感じさせる壁と、そして近未来的ないすのコントラスト、それを未来と過去の象徴にして、ドームでその未来と過去が一体化するようにつくられています。

⑧ 続いて、日本大通り駅へ参ります。日本大通は一転して、歴史的な重厚感漂う雰囲気に包まれます。馬車道駅という未来と過去の融合点から、今度は過去を感じさせる横浜へタイムスリップをさせてくれるような駅です。駅を降りると、周りには県庁、キングの塔、ジャックの塔、クィーンの塔という三つの塔があります。これらの塔はその昔、外国の船員が海からの目印にした塔で、これを見ると横浜に来た実感がわいたということです。

⑨ 最後は、元町・中華街駅です。こちらの駅は１冊の本をモチーフにし、壁や天井に横浜の開港当時の写真をそのままに、等身大の人物や道具がプリントされています。御覧いただくだけで横浜の開港当時の生活がしのばれるようになっており、まるでもう一つの歴史博物館のガイドブックを見ているような駅になっています。降りるだけで勉強になる本の駅とでも言いましょうか。この元町・中華街駅を降りると、大変人気がある横浜中華街や、リニューアルされた元町商店街、そして氷川丸が見える山下公園がすぐ目の前に広がっております。これら五つの駅、一つひとつに特徴がありますので、これからの２日間、皆さんには是非このみなとみらい線に乗っていただいて、お気に入りの駅を見つけていただきたいと思います。

横浜には年間、3,500 万人のお客様が訪れます。市外からのお客様を温かく迎え、市内の方々にも横浜の魅力を再認識してもらい、市外のお客様を笑顔で迎える気持ちを抱いてもらえたら良いと思います。横浜の街に皆さんの笑顔を彩として添える、そのお手伝いができれば、横浜観光親善大使としてもまちづくりにのお手伝になるかと思います。

この２日間皆様が、横浜らしさを十分に堪能し、楽しんで帰られることお願いします。本当にありがとうございました。

第1日　ウェルカムパーティー　　　【3月12日】

会　場：ホテル・ニューグランド　レインボー・ボール・ルーム
時　間：１３：００～１６：３０
参加者：
開会　司会：宮川眞壽美（実行委員会副会長）
主催者挨拶　六川勝仁（実行委員会会長）
来賓挨拶　中田宏（横浜市長）
各都市代表挨拶
ゲスト：五代路子、徳川恒孝、目黒征爾、たつみ都志
アトラクション：上田淳子(vo)、大島春生(p)

●来賓挨拶要旨　中田宏（横浜市長）

横浜市長の中田宏です。「開港5都市景観まちづくり会議横浜大会」のウェルカムパーティーにお招きいただきありがとうございます。

この会議は、日本最初の開港場になったという共通の歴史を持つ5つの都市の市民が集い、まちづくりの議論や交流を行う会として、函館、新潟、神戸、長崎から大勢の皆様に横浜へお越しいただいております。心より歓迎申し上げます。

今年は、1854 年に横浜で日米和親条約が締結され、日本が開国してから 150 年目になります。また、5 年後の 2009 年には、横浜開港から 150 年目を迎えます。このため、横浜では、本日の全体会議で講演された原さんをはじめとした商工会議所の方々などが中心となって、今年から 2009 年までの間、「近代日本開国・横浜開港 150 周年記念事業」を連続して開催することにしています。「開港5都市景観まちづくり会議」は、この関連イベントの第 1 号となります。

横浜市では、横浜独自の歴史や伝統を大切にする多くの市民の方々と連携し、街並みや歴史的建造物の保存を推進してきましたが、特に、ここ数年は保存活用事業の成果が数多く生まれています。私が市長に就任してからの2年間の間だけでも、赤レンガ倉庫をはじめ、日本郵船歴史博物館など、多様な歴史的建造物の保存活用される事例を目の当たりにしました。横浜の歴史を大切に考える建物所有者の方々のご努力に敬意を表するとともに、このような保存活用の取り組みを後押しする原動力となっています横浜市民の、長年の多様な活動を力強く感じています。

私は、まちづくりの分野においては、多様な市民活動や企業活動などが存分に力を発揮できるようになることが、重要であると考えております。また、このような歴史資産を地域の活性化に役立てる方策も必要と考え、「文化芸術・観光振興による都心部活性化」という新しい取組を開始しました。その最初の事業として、旧富士銀行や旧第一銀行の2つの歴史的建造物を使って、先週土曜日から、文化芸術活用実験をはじめました。この事業運営については、公募で選ばれた2つの民間団体にゆだねています。

これは、これまでの文化芸術の枠にとらわれずに、NPOなどの市民団体に創造性豊かに活動・

運営していただくことにより、この二つの歴史建造物を拠点として、新しい多様な文化芸術活動が育ち、周辺に広がり、地域の活性化につながることを期待しているためです。

開港都市の市民は、進取の気質に富んでいると思っています。明日の分科会では、まち歩きとディスカッションをされるそうですが、大いに横浜を楽しんでいただき、また、お互いの良い面を今後のまちづくりに生かし、今大会が皆様方にとりまして、実り多い大会となりますことを祈念しまして、あいさつとさせていただきます。

第2日　第1分科会　【3月13日】

	山手　ほか
時　間	９：００～１６：３０
集　合	９：００　横浜市役所前　くすのき広場（横浜市中区港町 1-1）
テーマ	心に刻まれたあこがれの港町　～文学とうた～
内　容	＜バスでまちめぐり＞　９：００～１２：００ 野毛～山下公園～伊勢佐木町～山手地区 港の見える丘公園・大佛次郎記念館・近代文学館 昼食：＜山手十番館別館　勝烈庵弁当＞ ＜ディスカッション＞　１４：００～１６：３０ 会場：ベーリック・ホール（中区山手町 72） 「開港都市の文学とうた」 「うたや文学を素材としたまちづくり」 ゲスト：たつみ都志（武庫川女子大）

○　港町に住む人の特性として、他の人たちを受け入れやすい特性があるのではないか。

○　歌や小説のルーツを明かす必要があるかどうかということは決められない。

○　文学の出来上がる三つの要素は、風土、境界線、ランドマーク。

○　まちづくりに取り組むときでも同じ要素を考える。

第2日　第2分科会　【3月13日】

会　場	みなとみらい２１地区　ほか
時　間	１０：００～１６：３０
集　合	１０：００　ＹＭＭプレゼンテーションルーム （みなとみらい線みなとみらい駅　クイーンズスクエア内） ＊集合場所の案内図は裏面にあります。
テーマ	わがまちのイベント
内　容	第一部＜横浜のイベント紹介＞　１０：００～１１：００ 「横浜のイベント」「野毛大道芸」「元町仲通りフードフェア」 ゲスト：奥寺康彦（横浜ＦＣゼネラルマネージャー） 「スポーツイベント」 会場：ＹＭＭプレゼンテーションルーム
	第二部＜昼食会とツアー＞ みなとみらい線みなとみらい駅～元町・中華街駅 昼食：＜霧笛楼（元町）＞ 元町～山下公園～みなとみらい２１線日本大通り駅～みなとみらい駅～クロスパティオ＜大道芸鑑賞＞
	第三部＜パネルディスカッション＞　１４：００～１６：３０ 「開港都市の活力とイベント」 会場：ＹＭＭプレゼンテーションルーム 「開港都市のイベント紹介（４都市）」／「イベントの課題や賑わいの成功事例」／「今後の可能性」

第2日　第3分科会　【3月13日】

会　場	元町　ほか
時　間	９：００～１６：３０
集　合	９：００　みなとみらい線「元町・中華街駅」<5 番　元町口> 改札前 （改札口が二つあるのでご注意ください。元町側の地上改札口の前に集合です。）
テーマ	近代化遺産をいかしたまちづくり
内　容	＜まちあるき＞　９：００～１２：４０ 元町公園（山手８０番館遺構・ジェラール水屋敷・山手２３４番館）・山手１１１番館～関内地区（旧富士銀行・旧第一銀行）～大さん橋～赤レンガ倉庫 昼食＜中華街　景徳鎮＞ ＜ディスカッション＞　１４：００～１６：３０ 会場：元町ＳＳ会事務所　２階会議室（中区元町） 「回遊性と開港の拠点」 「観光」 ゲスト：国吉直行（横浜市都市計画局都市デザイン室長）

第2日　代表者会議　【3月13日】

会　場	シルクセンター　地下１階会議室
時　間	１７：００～１８：００
内　容	大会アピールの検討 今後のスケジュールについて

（出席者）

函館	清野恒夫（函館の歴史的風土を守る会）	山口裕司（函館市役所）
新潟	本間龍夫（協同組合新潟あきんど塾）	阿部文志（新潟市役所）
神戸	曹英生（神戸南京町景観形成協議会）	仲井昌之（神戸市役所）
長崎	橋田克男（山手地区景観まちづくり協議会）	小山一志（長崎市役所）
横浜	六川勝仁（実行委員会会長） 宮川眞壽美（実行委員会副会長） 天川勝三郎（実行委員会副会長）	国吉直行（横浜市役所） 綱河功（横浜市役所） 落合健太郎（横浜市役所）

＜大会アピールの検討＞

・　大会アピールの内容を検討し、別紙のとおりまとめた。

＜今後のスケジュールについて＞

・　平成 16 年度（2004 年度）については、代表者会議を神戸で開催することとした。
・　平成 17 年度（2005 年度）については、開港 5 都市景観まちづくり会議を、阪神・淡路大震災 10 周年を迎える神戸で開催することとした。

第2日　オプショナルツアー　　　　【3月13日】

会　場	港内観光船　マリーンシャトル
時　間	１８：３０～２０：００
参加者	
内　容	観光船マリーンシャトルでのディナークルーズ。各都市の参加者と交流を深めながらお食事と、横浜港の夜景をお楽しみました。

第3日　全体会議②　【3月14日】

会　場	旧富士銀行横浜支店（BankART1929 馬車道）
時　間	１０：００～１１：４０
参加者	
内　容	閉会式　司会　石川喜三郎（山手西洋館ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾈｯﾄﾜｰｸ） BankART1929 の紹介　岡崎松恵代表 分科会報告 ＜第１分科会報告＞八木敏子（山手西洋館ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾈｯﾄﾜｰｸ） ＜第２分科会報告＞小林光政（横浜の観光を考える会） ＜第３分科会報告＞池田翼（関内を愛する会） 代表者会議報告　国吉直行（横浜市都市計画局都市デザイン室長） 大会宣言・大会旗引継ぎ　天川勝三郎（実行委員会副会長） 次期開催都市挨拶　横山祥一（新長田駅北地区東部いえなみ委員会） 謝辞　六川勝仁（実行委員会会長）

＜BankART1929 の紹介＞岡崎松恵（BankART1929 代表）

BankART1929 が運営している施設は、旧富士銀行と旧第一銀行です。「銀行」を「アート」に活用するということで、「BANK」と「ART」を合体して「BankART（バンカート）」、そしてどちらの銀行も 1929 年に建てられたということで、「バンカート 1929」という名前にしました。ここでは今後、美術、演劇、ダンスなど、様々なジャンルのアートをやっていこうと思っています。また、街とどうかかわっていくか、「アートと街」、「アートと生活」ということを追求していきたいと思っています。そのプログラムを、皆様と一緒に考え、あと２年間を活動していこうと考えています。そのオープンプログラムの中に、「椅子プロジェクト」というのがあります。今、みなさんが座っている様々な形の椅子は、市民の方から寄せられた椅子です。この馬車道ホールのオープンの際、この建物が皆さんの御協力によって残されたということを伺い、同じ様に市民の方々が大切に使って守ってきた椅子を、ここの劇場に集めたいと思ったわけです。座り心地は様々だと思います。

また、帰りにお時間がございましたら、展示などもございますので、是非、この馬車道ホールに楽しんでお帰りいただければと思っております。どうもありがとうございました。

<第１分科会報告>八木敏子（山手西洋館ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾈｯﾄﾜｰｸ）

バス２台にほとんど満員のような形で、朝９時に出発しました。日ノ出町、野毛坂、老松町、紅葉坂、桜木町を経て海岸通に出た。そして大桟橋へ向かい、その間に有島武郎吉川英治、大佛次郎、三島由紀夫等の碑、小説の舞台等の説明をしました。

バスを降りて、山下公園に入り、そこで「赤い靴」、「カモメの水兵さん」等の歌に関係のある像等を見ながら歩きました。再びバスに乗り、伊勢佐木町に行き、松阪屋の前で、「ゆず」に関する映像や、青江美奈の展示を見学しました。

伊勢佐木町からバスで山手地区に行き、バスを降りて山手本通りよりも少し奥まったあたりを回りました。それから、山手十番館の別館でお昼をいただき、２時からベーリックホールで、ディスカッションしました。

その最初に、各都市から文学と歌についてお話をいただきました。

長崎は歌人や俳人が多いとのこと。面白かったのは、長崎は雨が少ないのだそうです。「あれは歌に誘導されたものである」とのこと。

神戸は、トーワロードが海と山をつないでいて、大阪湾の光が雲に反射し、それが山に移るのでで、変わった色になるとのこと。

新潟は水の都であって、信濃川の河口にできた港。1600 年代に堀ができ 1700 年代には柳がもう植えられていた。それが今、堀がなくなってしまったので、また昔の堀などを造り直すという計画があるとのこと。

函館は啄木が作品を残しているが、この人は４か月しかいなかった。函館には、よそから来た人を受け入れられる要素があるのではないかとのこと。啄木は、北方流離の旅人で、文学の中に哀しみ、痛み、苦しみが出ていて、それがみんなにウケたんではないかというようなお話でした。

ディスカッションでは、まず港町に住む人の特性として、ほかの人たちを受け入れやすい特性があるのではないかという話や、「赤い靴を履いてた女の子」のルーツを明かすような事が必要があるかどうか、それよりも子供の夢を壊さないのがいいのではないかという議論がありました。また、ゲストのたつみ先生から、文学の出来上がる三つの要素の話がありました。一つは、その風土。次に境界線。これは橋とか、とにかくそこから外へ出ると人が変わるというような境界線。それから、ランドマーク。山や灯台など。そういうものが文学を形成しているというお話がありました。また、まちづくりでも同様なことを要素として考えるという意見がありました。これから先、どういうまちづくりになっていくか、どんな文学が生まれるか、どんな歌が生まれるか、今後も考えていこうということになり、もちろん結論は出ないので、神戸大会への宿題にするという結論でした。

<第２分科会報告>小林光政（横浜の観光を考える会）

私どもの第２分科会「我が町のイベント」をテーマとしました。横浜で企画を担当したの

は「横浜観光を考える会」、「野毛地区まちづくり会」、「元町仲通り会」の３団体です。

10時から横浜観光を考える会の副会長の高橋さんのすばらしい進行で始まりました。

まず、観光を考える会の事務局の三浦さんから、これからの町は、ソフトが大事であり、皆さんがどういうイベントをやっているのか、お互いに知ることで、新しい文化が芽生えることを期待して「我が町のイベント」というテーマを取り上げたという趣旨の説明がありました。

まず、映像で横浜の主なイベントの説明をして、そこから三つほど詳しく説明しました。まず、サッカーのプロ１号である奥寺さんに、スポーツイベントについてお話いただきました。奥寺さんは御存じのように、日本のサッカーのプロ第１号です。ドイツでは大変苦労してきたという話もありました。横浜は何としても、市民の力によってですね、スポーツを盛り上げていくということで、今あれですね。横浜ＦＣのゼネラルマネジャーを務めているわけです。これはあくまでも横浜市民の力による、市民の意識によるクラブですね。そういう意味で大変、御苦労。立上げの御苦労がひしひしと伝わってまいりました。

まあ、奥寺さんは昨日のですね、午後に試合があったんですね。その結果を見ますと４対０で勝っておりますね。これはもう大変、午前中に我々のところへ来ていただいてお話をしてすぐ帰ってですね、試合をしていると、こういうことなんですね。大変、奥寺さん、ありがとうございました。

それから続きまして、野毛大道芸につきまして、私どもの野毛大道芸実行委員会マネジャーの大久保フミカさんから、約20年にわたるですね、いろいろな活動の中で、まあ、フミカさんの活動は大道芸では14年間でございますけども、その前にこの関内地区のいろいろなイベントを手掛けられておられたんで、その 20 年間のいろんなイベントのことから、また、大道芸の内容についてですね、映像で詳しく説明をいただいたわけでございます。

これは今、野毛大道芸はどちらかといいますと、日本国中に名前が広がっているわけでございますが、エリアの野毛だけじゃなくて、MMから関内、それから関内地区はまだちょっと遅れてますけども、伊勢佐木町、それからMMでございますね。それから赤レンガ倉庫。もうやがてこの馬車道でもやるという、やろうかと思います。そういう具合に大変な広がりを今、持っておりまして、昨年は85万人のですね、人出があったという説明がありました。

それから三つ目はですね、元町中通りフードフェアでございますが、元町の中通り、これは皆さん御存じかどうか分かりませんけれども、大通りは大変、実に立派に整備なさっておいでですが、その裏側に大変静かな通りがあるわけです。まあ、静かと言っても、車は一方通行で通りますので、車がなければ本当に静かな町なところなんですね。

昔は職人さんがいろいろ家具を、横浜家具を作ったりした、また陶器を磨いたりですね、そういう具合にしてた職人さんの町だったわけですね。

それが見事にフードフェアをやるようになりまして、といいますのは、やはり飲食店の方々がすごく進出をしてきたということでございまして、これがなかなか大変な盛況でご

ざいまして、横浜で唯一、大金もうけをしているフェア、こういう説明がありました。これからのフェアは、やはり金もうけをある程度考えたフェアでなければいけないのかな。まあ、そんなことを実は印象を受けました。

それから、それが終わりまして移動いたしまして、元町のですね、霧笛楼。まあ、これは横浜でも有名なシェフの、今平シェフがおられるですね、大変おいしいレストランでございますが、まあ、歴史はそんなに古くないんでございますけれども、大佛次郎の『霧笛』からですね、取って、「霧笛楼」、こういう名前を付けた。こういう社長の説明がありました。

実は大変予算が少ない中でですね、無理を言って、本来ですとなかなか予約でですね、いっぱいのレストランでございますけれども、ここで昼食のフルコースをいただいたということでございまして、ドリンクまで準備をしていただいた。鈴木さんにはですね、何か恩返しをしなきゃいけないかなと、こう思っております。是非、横浜へお見えになったときには、まず一番最初にですね、この霧笛楼を予約していただいてですね、是非、恩返しをしていただきたいと思います。皆さんに内緒に、その料理の内容はですね、ほかのところへ行かれた方には内緒にですね、したいなと、そういう具合に皆さん言っておりました。大変おいしい料理をいただきました。

まあ、イベントというのはですね、また、旅行というのはですね、食べものが一番、印象に残るんですね。昨日も私の女房がハワイから帰った。一昨日ですね、帰ってきまして、やっぱり食べもののこと、やっぱり着るもののこと、それからホテルが良かった、そういう話ですね。やはり食事を、どこまでいっても……ないですね。

それから、２派に分かれました。１派は、元町を散策をいたしました。もう一つは健脚コースでございまして、そこからずっと港をですね、歩きまして、MMまで帰ってきて、途中で大道芸を見まして、大変実は、芸は大したことないと、私から見ますと。大変、言葉がうまいですね。お金集めがうまい芸人さんなんですね。まず１万円札がパッと渡りましたね。１万円。「今日はもうこれでいい」なんて言ってましたけれど。

それからはもうどんどん皆さんからですね、お札なりコインを渡しておりまして、大変和やかな雰囲気を御覧いただいたわけでございます。どうでしょうか、皆さん。

○____　ええ。そろそろまとめていただいて。

○小林　はい。

そんなことで、午後はですね、各代表の方にですね、各都市のイベントをいろいろ御説明いただいたわけでございますが、まあ、私、感想でございますけど、やはり日本人というのはですね、何かありますと金太郎飴みたいにですね、どこを割っても同じようなことをやる、どうも国民性があるんですが、私は大変、実はびっくりしたんですね。本当に個性豊かなですね、イベントを皆さん、各都市がおやりになってます。

これはですね、私は今後ともこの各個性をですね、十分生かしながら、また、そのいいところ取りをですね、皆さんが相互にしていただくと、なおいいイベントができてくるのかな。それこそこの５代表がですね、日本全国のイベントの代表的な都市になって、イベント開催都市としての代表的な都市になれば、そんなことを考えました。

それから、ちょっと時間がございませんので端折りますが、生活文化という切り口ででですね、神戸の方でございましたけれども、神戸に、家具屋さんだそうです。で、横浜の家具、こういうものと各都市ですね、家具屋さんがやはりブランドを立ち上げたらどうかと、こういうことですね。五つの都市の家具。また、フードでも何でもいいですね。これ雑貨でもいいんです。生活雑貨の、やはりそういうブランドをですね、立ち上げたら面白いんじゃないかと、こういう提言もございました。多少、文化かから経済性というものもですね、ちらほら見えてまいりまして、今後のイベントというのが多少、やはり経済性を伴うものでないと、皆さんのですね、それこそ懐のお金を出し合ってというのはなかなか長続きはしないんではないか、そんな印象を受けたわけでございます。

まあ、最後に私どもは観光には大変、実は深い関係がございますので、来年は是非ですね、都計と経済局が一緒になってこういう会をですね、催しますと、もう少し幅広い意見が集約できるかなと、そんなことをちょっとお話を申し上げまして、私のレポートと替えさせていただきます。どうもありがとうございました。

＜第３分科会報告＞池田翼（関内を愛する会）

第３分科会は、「近代化遺産を生かしたまちづくり」というテーマを設定しました。

このテーマはあえて「歴史的建造物」という言葉を使わず「近代化遺産」としたのは、江戸から明治にかけて開港したという、開港５都市の共通項を意識したものです。

前回の横浜大会でも、私は歴史的建造物に関する分科会にかかわったのですが、そのときは、「歴史的建造物」という言葉を使っていました。

それから、今の臨海プロムナードの地区がですね、まだそのときは、何ていうんですかね。整備途上でございましてね、皆様方はそういう、例えば赤レンガはまだ修復の屋根がかかっていたとか、そういう状態で御覧いただいたわけでございまして、今回は完成した臨海の建造物を見ていただこうじゃないかということで設定をしてみたわけでございます。

具体的には昨日、朝９時からですね、午後の４時半まで、先ほど第２分科会が６時間半、７時間半の長きにわたった分科会でございまして、まず午前中は、出来上がったばかりのMM新線の元町・中華街駅に９時に集まりましてね、それで山手をまず回りました。まあ、コースとしては元町公園からジェラール水屋敷、それから山手の 234 番館、山手の 111 番館。

それから、そこを回りましてですね、そのまままた元町駅に戻りました。そこからMM新線に全員で乗りましてね、馬車道まで乗りまして、その駅のそれぞれの造りを御説明し

たりしながらですね、見まして、馬車道で降りましてそこでティータイムがあったものですから、サモアールという喫茶店に。喫茶店といいますか、レストラン、喫茶店。寄りまして、20 分ほど歓談をして、それから今度、臨海プロムナード。そこからこの富士銀行。それからあと、それから第一銀行の跡を見まして、万国橋を経て、赤レンガ倉庫。それから、まあ、「象の鼻」という、これは近代化遺産の中の、今回の一つのテーマの目玉にしておるわけでございまして、そこを見まして、それから大桟橋。これも６年前、全然まだ姿もなかった新しい大桟橋の近代建築を見ていただきまして、それから山手、山下公園経由中華街、そこで昼食というようなコースでございました。

で、大変、幸運だったのは、都市計画局の国吉デザイン室長がですね、我々のグループに付いて回っていただきましてね、非常にシティーガイド協会の担当者の方の説明に、実際に携わった室長の説明が加りまして、非常に参加した方々が参考になったんではないかと思っています。

それから、午後の部でございますけれども、これはＳＳ会の事務局をお借りしましてですね、午後の分科会に入りました。

まず初めに、「横浜市のまちづくり」というテーマで、都市計画局のデザイン室長、国吉さんから約１時間近い講演をいただきまして、30 分が１時間になっちゃったんですけど。横浜のやはり臨海地区の実際に御担当され、思いを込めた説明がありましてですね、プロジェクターを使いながらやりました。

それを受けまして、この分科会は先ほど申し上げましたように、各都市の共通項である近代化遺産。この中でも特に開港の拠点。要するに、どこからこの港がといいますか、まちづくりが始まったかという拠点ということで各都市にテーマが、具体的なっていいますか、テーマをさしあげまして、それぞれについて語っていただくというようなことで始めまして、国吉さんの後の各都市からの事例紹介ということで、まあ、函館市、それから新潟市、神戸市、長崎市という４都市の紹介があったわけでございます。

特に印象に残りましたのは、当然、各都市の近代化遺産についての御説明ありました。それから、それをどう保存してまちづくりの中にどうやって生かしていくかというようなテーマでいろいろあったわけでございますが、特に新潟市の例。先ほど八木さんからもお話があったんですけど、「柳都」という、堀と柳。それと色町という新潟市の特色の町がですね、近代化、当初はそうだったんでしょうけど、多分、東京オリンピックのときだったと聞いておりますけれども、その堀がね、埋められちゃったんですよ。

それを私は３年前に新潟に、大会に行きましてね、そのときにそういう堀を、せっかくあった堀をもう一度、復元しようじゃないかという気運が出てました。それで今回、「その気運がどうなったの」という話をちょっと、まあ、問いかけましてですね、「脈々とその動きがあるよ」というような話がありまして、まあ、楽しみだなという感想を得ました。

それでもう一つ、最後に長崎さんがですね、非常にプロジェクターを使った大変素晴らしいプレゼンテーションの中で、出島。出島を復活、復興してですね、トウジョウでした

っけ。そうですね。

出島をですね、何しろ元の出島。それが、出島があった、まあ、横浜で今、新港埠頭みたいな感じだと思うんですけど、それが一旦、町並の中に取り込まれちゃったというような話の中で、これもまた復活するというような大変うれしい話なんです。

それからもう一つ、まちづくりの中でも拠点。拠点は町中に近代化遺産が点々とした、その中に更にミニ拠点というんですか。そういうものをこれから配置していこうというようなまちづくりの手法ですね。これは私が、「しっぽく料理風なまちづくり」と申し上げたんですけど、そんなまちづくりの手法の中で頑張っておられるというような話が大変、参考になりまして、まあ今後、この大会もこれで２循目でございまして、そろそろ何ていうんですか。この５都市の共通項をまちづくりの中に生かしていけるようなことでのそれぞれのアイディアがあってもいいんじゃないかというようなことで思っております。

まあ、ちょっと時間がなくなったんですけど、最後、「象の鼻」というこの横浜のですね、まさに開港の拠点。大桟橋の横にあるんですけども、そこの景観を今後どうしていこうかというのが都市計画局の大きなテーマであると。横浜の町のテーマであるということで、最後にパネルディスカッションの中でですね、皆様からいろいろと意見をいただきました。「そのまま保存したほうがいいんじゃないか」と。それから「公園にしたほうがいいんじゃないか」とか、それから「大通り公園の真っ正面の倉庫、これは取っ払うべきかどうすべきか」とかね、いろいろ大変、活発な議論になりまして、これも非常に参考になりました。

まあ、以上そんなことで報告を申し上げました。ありがとうございます。

○国吉　それでは代表者会議の報告をいたします。

えーとですね、シルクセンターにおきまして、昨日、５時から６時の間に開催して、出席者は、各都市の代表として、函館市からセイノさん、新潟市からは本間さん、神戸市からソウさん、長崎市の橋田さん、横浜からは六川さん、宮川さん、アマカワさん。そして各都市の行政の代表が続いております。

そして会議の内容ですが、大会宣言の文案を検討いたしました。

それから、次の開催をどういうふうにするかということのスケジュール等について議論いたしました。この２点を中心として議論いたしました。

大会宣言につきましては、大体、素案を基にですね、かなり修正が付け加わりましたけども、これは案として配付しておりますが、後ほど実行委員会副会長のアマカワさんより御紹介させていただきます。

それから、次回の開催でございますけども、いろいろ議論あったんですが、実は前回の函館大会のときにですね、既に神戸市さんからもう御要望があったということで、この辺

も踏まえて議論いたしました。これの結果ですね、次回は、まず開催については神戸の、阪神淡路大震災からですね、10 年目という記念の時に合わせて開催したいという前々からの御要望がありまして、これを受けてですね、2005 年度、平成 17 年度に神戸大会を開催するということで皆さん了承いたしました。

また、実は今回の横浜大会は 15 年ですね。2003 年度の事業で、本当は昨年の秋、行っても良かったんですけども、開港 150 年ということで３月に持ってきた次第です。

で、16 年度は１年間かけてですね、ここでできれば 12 月 11 日ごろからのルミナリエの期間に合わせて代表者会議を開いてはどうかというような提案がありました。これは神戸市さん中心にまた各都市に図っていくということになります。

以上がスケジュールでございます。まあ、その他のスリーラウンド目の神戸市以降の開催については、神戸での代表者会議で最終決定するという形になるかと思います。

そのほかの意見としてですね、議論の中で、開港ということ以外にも５都市共通の取組などもやってみたいというようなことがあったと。

それから、まあ、先ほど第２分科会でも何か、ブランドの問題とか提案があったようですけども、そういうこともあってですね、大会で集まるだけでなく、連携したことをやりたいという御希望も出てるよということはありました。

また、開港 150 年という、これから開国から開港へ向けてここ五、六年はずっと続いていくわけで、各都市いろんなことが行われると思いますので、５都市でいろいろ何か刺激し合ってやっていきたいなというふうな議論になりました。

まあ、こういうことも含めてですね、神戸の代表者会議に各都市の提案があったら持ち寄るということで、代表者会議の内容を終わります。以上でございます。以上で御報告終わります。

○司会　どうもありがとうございました。何か御質問。よろしいですか、ただ今の。神戸市で 17 年度に実施というふうに伺いました。

それでは続きまして、大会宣言を、実行委員会副会長のアマカワタチサブロウ、よろしくお願いします。

○アマカワ　アマカワでございます。おはようございます。

開港５都市の景観まちづくり会議横浜大会、大会アピールをさせていただきます。

今年は 1854 年にペリーが来航し、この横浜の地で日米和親条約が定結されてから 150 年目を迎える。この記念すべき年に開港５都市景観まちづくり会議は 10 回目の節目をここ横浜で迎えた。150 年の歴史とにぎわいづくりをメインマーマとし、3 日間にわたり楽しく、かつ有意義な時を過ごすことができた。「心に刻まれたあこがれの港町－－文学と歌」「我が町のイベント」「近代化遺産を生かしたまちづくり」の三つの分科会で今までのテーマをより深めながら、新たな視点も加え、活発な議論が繰り広げられた。

町の景観は歴史・文化とそこに暮らす人々、働く人々、まちを訪れる人々の活動があいまってかもし出す風勢が感じられてこそ価値がある。そしてハードからソフトまで、多様

なテーマで、景観まちづくりに取り組むことの大切さを知った。

我々はこの大会を継続してきたことを力に更に交流の輪を広げるとともに、これからも開港５都市の市民が連携して知恵を集め、行動力を発揮して、元気なまちを作っていくことを確認し、ここに宣言する。2004 年３月 14 日、開港５都市景観まちづくり会議横浜大会。

○司会　どうもありがとうございました。拍手をもって御承認ということで。

では引き続きまして、アマカワさんに、大会旗の引継ぎをお願いいたします。

次回開催市の神戸市の代表であります、新長田駅北地区東部家並委員会の横山ショウイチさん、前のほうにお願いいたします。

○＿＿　大会旗が下りてまいりましたので、ちょっと大会旗の説明をさせていただきます。

この大会旗は前々回の新潟大会開催時に、５都市共同で作成したものです。新潟、函館、横浜とリレーされてきました。この引継ぎをもって我が横浜は大会開催の責任から開放されるかと、我々一同、ほっと胸をなで下ろしているところでございます。

簡単にシンボルマークの説明を行いますと、五つの尾は開港５港、五つの色はそれぞれ、緑が自然と生物、ピンクが友情と愛、青は海と空、黄色がコミュニケーション、紫は文化をイメージしております。デザインは新潟の高柳さんでございますね。

以上でございます。それでは神戸さんに引継ぎをさせていただきます。

よろしくお願いします。

○＿＿　オーッ。

○　司会　ではここで横山さんにちょっとごあいさつお願いいたします。

次期開催都市挨拶　横山祥一（新長田駅北地区東部いえなみ委員会）

年々この５都市の会が盛大に行われてきましたが、特に今回は有意義な意見がたくさん出たと思います。

神戸ではハード整備がまだまだ残っていますが、これからはソフトのことも考えていかなければならないと思っていました。参加して参考になる意見をたくさんいただきました。

私たちも、神戸の場合はですね、ひとつ皆様どうお考えになってるか知りませんけども、一つね、大きな問題が起こってるわけです。で、時火報いいましてね、自動火災報知機ですね。これを 300 ㎡以上は付けないかん。せっかく新しく建てた家を、端を壊してですね、そしてお金を私のとこで見積り　150　万円です。そういうことをあっちもこっちもやらなければならないようなことで、これ復興がまた、せっかく復興したのにどうかなと、そういうようなこともあります。

私たちは、今年の勉強したこと、今、神戸ではどこにでも使える要素がたくさんあると思います。新しく家を建てる。新しいまちづくりをしていてる、区画整理をしてるいうような状態ですので、もう何でも教えてもらって、一生懸命私も、神戸もやりたいと思いま

す。

今後とも特に来年はですね、皆さん特に函館、長崎の方にはたくさんおいでを願いまして、盛大な神戸大会ができることを念願して、ごあいさつといたします。どうもよろしくお願いいたします。

謝辞　六川勝仁（実行委員会会長）

皆さんおはようございます。一言、御礼のごあいさつを申し上げます。

まず、大会アピールを承認をいただきありがとうございます。また、各都市の皆さん、遠方まで、多数御参加をいただいたことに御礼申し上げます。横浜サイドでご協力いただいた皆さんの３日間の御協力にも御礼申し上げます。

昨日の分科会は天気にも恵まれました。積極的な意見交換もあり、大変、有意義な時間が過ごせたのではないかと思っています。

開港５都市景観まちづくり会議も、一巡目は、各都市少し堅さがあったのかなと思います。２クール目になり、その堅さが少しずつ取れて、非常に自由な意見交換ができる、そういう雰囲気が生まれてきたのではないかと思っております。

やはりこの 10 年の継続というのは、素晴らしいものではないかと再認識しております。

共通した課題の多い開港５都市ですので、これからもっとコミュニケーションを豊かにし、英知を集めて、各々の課題に取り組んでまいりたいと考えています。

先ほど代表者会議の報告がありましたが、３クール目も神戸からまた新たにスタートすることになりました。皆さんどうぞよろしくお願いします。

横浜では、開国 150 年の今年から開港 150 年までの５年間、もう一度横浜を見直し、横浜に来ていただく、滞在していただく。あるいは、楽しんでいただく、そういうような仕掛けを進めたいと思っています。冒頭、このバンカート 1929 の話がありましたが、この建物を有効に活用していくかというプロジェクトは、スタートしたばかりです。

皆さんの都市でも、こういう歴史的建造物の銀行をいくつもお持ちで、横浜よりははるかに先行し、取組まれていると思います。横浜も是非、参考にして、いいプロジェクトにしたと思っていますので、よろしく御協力お願します。

企画展示　「中区歴史を碑もとく絵地図展」

会　場	情文プラザ （横浜市中区日本大通 11 番地　横浜情報文化センター　1 階） ＜みなとみらい線日本大通り駅隣接＞
期　間	３月１２日～３月１４日（９：００～１７：００）
受　付	入場自由（どなたでもご覧いただけます。）＜無料＞
内　容	中区内の近代文化発祥に関する記念碑や史跡などを紹介したパネル展。大会に参加している団体の紹介パネルも展示しています。

参加団体・協力団体

主　催	開港５都市景観まちづくり会議横浜大会実行委員会	
構成団体 横　浜 (13)	伊勢佐木１・２丁目地区商店街振興組合 関内を愛する会 協同組合伊勢佐木町商店街 協同組合元町ＳＳ会 野毛地区街づくり会 元町仲通り会 山下公園通り会	山手西洋館ボランティアネットワーク NPO 法人横浜シティガイド協会 横浜中央地下街商店街 横浜中華街発展会協同組合 横浜の観光を考える会 馬車道商店街協同組合
参加団体		
函　館 (3)	函館の歴史的風土を守る会 函館市伝統的建造物群保存会	(社)函館国際観光コンベンション協会
新　潟 (7)	サンクプロム石山商店街協同組合 協同組合新潟あきんど塾 NPO 法人新潟水辺の会 ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙｶﾗｰﾌﾟﾗﾝﾅｰ協会環境色彩研究所	にいがた花絵プロジェクト実行委員会 NIIGATA 光のページェント実行委員会 市民大学「新潟学」自主勉強会
神　戸 (12)	北野・山本地区をまもり、育てる会 旧居留地連絡協議会 美しい街岡本協議会 神戸南京町景観形成協議会 トアロード地区まちづくり協議会 栄町周辺まちづくり懇談会	新長田駅北地区東部いえなみ委員会 魚崎郷まちなみ委員会 三宮中央通りまちづくり協議会 神戸元町商店街まちなみ委員会 （株）地域問題研究所 （株）まちづくりワークショップ
長　崎 (5)	山手地区景観まちづくり協議会 深堀地区まちづくり推進協議会 三ッ山町犬継地区まちづくり協議会	大浦青年会 浜んまち６商会

後　援	横浜市	
協　力	ＢａｎｋＡＲＴ１９２９ シティアクセス(株) (財)シルクセンター国際貿易観光会館 (財)横浜市緑の協会	(株)横浜みなとみらい二十一 (財)横浜観光コンベンション・ビューロー (財)横浜産業振興公社 赤い靴記念文化事業団